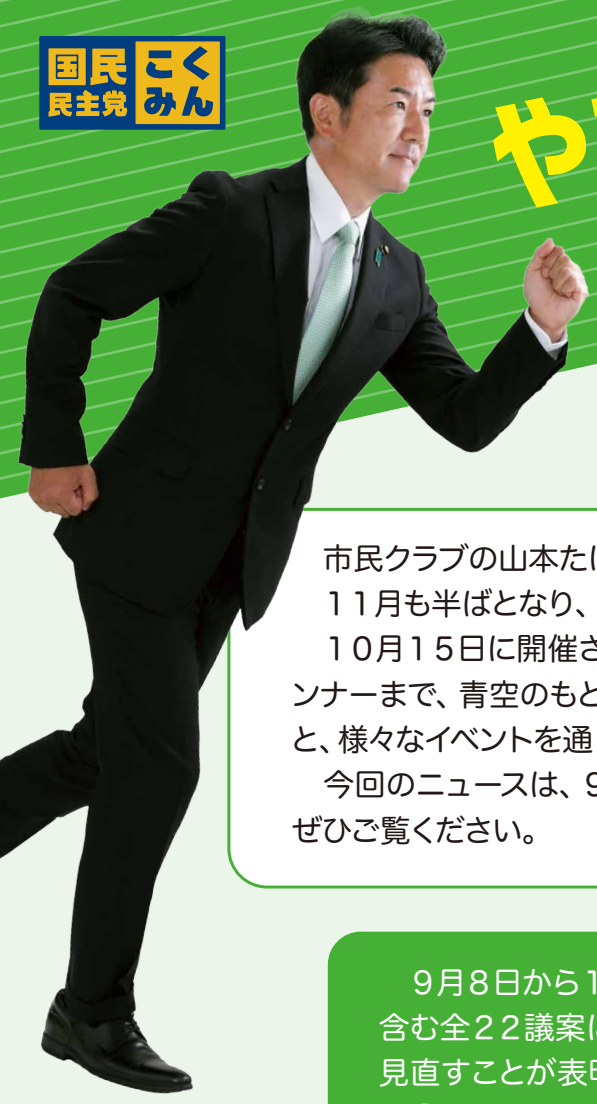


国民民主党 こくみん

やまたけNEWS

敦賀市議会議員 山本武志 議会報告

2023.11 第18号

まっすぐ誠実に粘り強く

E-mail：yamatake@yamamoto-takeshi.net
TEL：090-9766-7645

WEB・ブログ　facebook　Instagram　twitter

市民クラブの山本たけしです。

１１月も半ばとなり、徐々に紅葉する山々に秋の深まりを感じるところ。

１０月１５日に開催された「第４２回敦賀マラソン大会」では、小学生からご高齢のランナーまで、青空のもと爽快に走る姿がありましたが、スポーツを始め、文化や読書に食と、様々なイベントを通じ、市民の皆さんが「秋」を楽しまれる姿を嬉しく思う次第です。

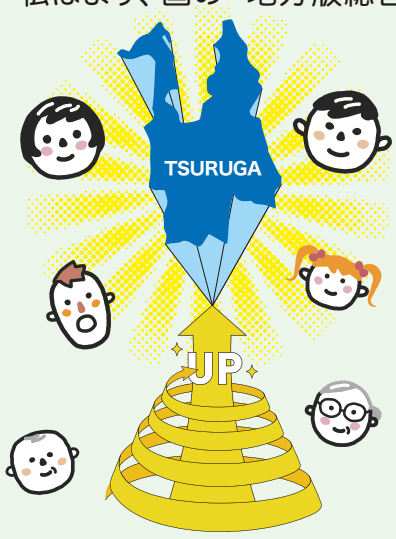
今回のニュースは、９月定例会の内容を中心に自身の活動をご報告いたしますので、ぜひご覧ください。

９月８日から１０月１１日に掛けて９月定例会が開催され、前年度決算認定を含む全２２議案について審議しました。また、自身の一般質問では、今年度中に見直すことが表明された「次期総合計画について」、子育て環境の向上につながる「保育士のよりよい職場環境づくり」の２項目を取り上げ、意見しました。

提言1　次期総合計画がめざす敦賀の「地域ビジョン」はいかに！

市の最上位にある総合計画。６月定例会において市長は、この計画を今年度中に見直すことを表明しましたが、策定される計画は、今後の敦賀の羅針盤となるもの。

私はまず、国の「地方版総合戦略」の考えをもとに、**敦賀の地域ビジョン（地域のめざすべき理想像）をどう考えるのかを質問したところ、市長からは、「各分野の政策を連携させて好循環のうねりをつくり出す」との答弁**がありました。

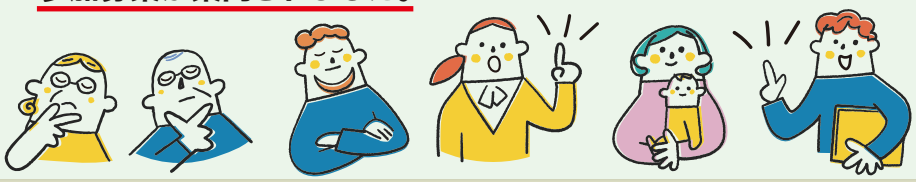


これを受け、私からは、「プラスのスパイラルが市民の皆様にも職員の皆様にも伝わるような、そういったビジョンを示していただきたい」と意見しました。

提言2　計画策定に向けた進め方を広く周知し、皆で考えよう！

これまでの総合計画策定・検討は、「敦賀市総合計画審議会設置条例」に基づき、市長の諮問により設置される審議会にて行われてきましたが、今回は、一定期間、一定のメンバーで行う審議会方式に代え、より開かれた形でスピーディーに策定を進めていく、例えば市民参加型のワークショップ等の開催を行う形式に変更していきたいとのことでした。

私は、最上位の計画であるが故、「市民皆で考える」ことにつながるよう、策定に向けた進め方を広く周知いただきたいと求めました。**質問の場では「検討する」との答弁に留まりましたが、その後、市のホームページにて、次期計画のポイントやスケジュールが分かりやすく示されるとともに、１１月６日にはワークショップへの参加募集が案内されました。**



活動スナップ

10月1日
名勝柴田氏庭園リニューアルオープン記念式典

10月1日
連合福井嶺南地域協議会「最低賃金改定周知」街頭行動

← 三重県伊賀市「重層的支援体制整備事業」

奈良県葛城市「学校給食センター」→

10月16～18日
文教厚生常任委員会 行政視察（学校給食センター建替えなど）

発行責任者／市民クラブ　　編集責任者／山本 武志

提言 3　保育士の よりよい職場環境づくりに向けて！

全国的に慢性的な人手不足や高い離職率が叫ばれている保育士に関しては、市内の公立保育園で働く現場の声を把握したうえで、**保育士がより「ゆとり」と「やりがい」をもって業務に従事できる環境を構築することが不可欠との思いのもと、改善に向けて質問しました。**

まずは人員体制について、５年前と比較し経験豊富な中堅職員の割合が減り、若手職員の割合が増えている実態を念頭に置きつつ、持続的な新規採用と年齢ギャップを少しでも改善する観点から、滋賀県の野洲市で取り組んでいる「野洲市三方よし人材バンク」のような、優位性ある市独自の取り組みを提案しました。

市からは、「野洲市の事例等、他市町村の先進事例についても研究していきたい」との答弁があったことから、今後前向きに検討されることを切望いたします。

提言 4　園児との関わり方を深めるための 業務負担軽減を！

保育士さんとの意見交換では、園児との個別の関わり方を深めるため、保育の準備に時間をかけたい、子どもの発達に合わせた保育をしたいとの共通した強い思いがありました。私は、これを叶える環境づくりのためには、保育士の業務負担をいかに軽減し、本来業務に集中していただくことが肝要と考え、日常的なトイレ掃除や除草、冬期の除雪対応などに関しては、ほかに委託するなどの対応を講じられないか、市の考えを問いました。

市からは、「まだ外部に委託できる業務もあると認識している」、「引き続き、現場の声をお聞きしながら働きやすい職場環境の整備に努めてまいりたい」との答弁がありましたので、今後、答弁に沿った対応がされるようフォローしてまいります。

「子どもたちと関わる時間を増やし、もっと向き合いたい」これが敦賀で働く保育士さんの強い思いです。ぜひともこの思いを酌んでいただき、保護者の皆さんや地域の皆さんと協力し合って、よりよい子育て環境の構築に取り組んでいければと思いますので、ご協力をお願いいたします。

第５４号議案 令和５年度敦賀市一般会計補正予算（第５号）の件に対し「賛成討論」を行う

本補正予算に計上された

- **「結婚支援事業費」**（333万７千円）は、人口減少対策の根幹にある「出会い」に焦点を充てた事業であること
- **「次世代タクシー車両導入支援事業費補助金」**（3780万円）は、ＬＰガスを供給する市内唯一のスタンドが廃止されることに起因した喫緊の支援策であること
- **「すみずみ子育てサポート事業費」**（397万７千円）は、子育て家庭の経済的、精神的負担軽減に寄与すること
- **「西公民館建設事業費」**（217万８千円）は、老朽化や耐震性を念頭に施設の移転新築の検討に資するものであること

などのほか、物価高騰対策や将来に向けた調査検討など、**その必要性と費用は妥当であると評価し、会派を代表して「賛成」の立場にて討論しました。**

議員の活動は「熱伝導」！

政治や議会に関心を持っていただきたい一心で、市内各所で街頭活動を続けています。

今後も引き続き、「野に出でよ鍬を持て」の精神のもと、活動に邁進してまいります。

一般質問の詳細は
「敦賀市議会インターネット中継」よりご覧ください！
https://tsuruga-city.stream.jfit.co.jp

政治に求められる「哲学と理念」

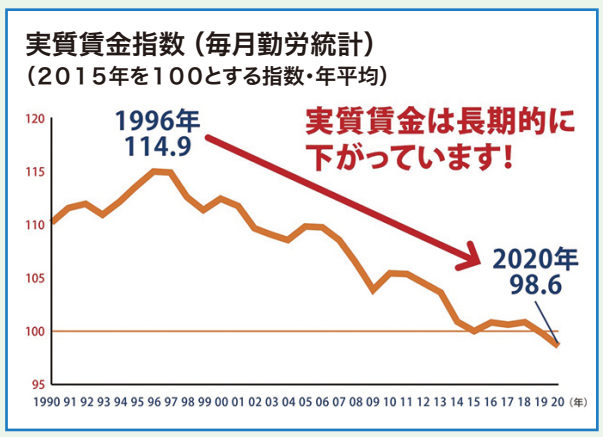
最近、耳にすることが多くなった言葉「ブラケット・クリープ」。簡単に言えば、物価高や賃上げによって、所得の上昇率以上に税負担が増え、給料の手取りが実質的に減ってしまう現象のことを表します。

日本はこれまで、ブラケット・クリープに対応するため、物価がある程度上昇する度に、所得税の課税最低限（基礎控除）を引き上げてきましたが、長らくデフレの時代が続いたため、１９９５年を最後に約３０年間据え置かれたままの状況にあります。

一方、この間３０年に亘って下がり続けているのが実質賃金（添付グラフ参照）であり、近年の物価高騰など、「生きるのに必要なコスト」が上昇する中で、ブラケット・クリープに早急に対応していくことが不可欠と考えるところです。

そうしたなか、国民民主党においては、この臨時国会でも論点になっている「所得税減税」に関し、基礎控除の引き上げを中心とした、インフレ時代に適用した所得税改革としての所得税減税法案、さらには消費税減税法案を国会に提出しています。

こうした税制はすべて、私たちの生活や経済活動と直結することから、地に足のついた哲学と理念に基づき進められるべきものと、政治に携わる者の一人として肝に銘じる次第です。



出典：毎月勤労統計調査「実質賃金（現金給与総額）指数及び増減率 - 就業形態計（5人以上）（調査産業計）」（令和4年1月25日公開）をもとに国民民主党が作成

発行責任者／市民クラブ　　編集責任者／山本 武志